



駿高同窓会HPに寄せて

内山 晶夫

駿高同窓会の皆様、お元気にお過ごしでしょうか。皆様には駿台甲府をいつも熱く見守り、様々なご支援をいただいておりますことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、寺井英仁同窓会会長の力強いリーダーシップの下、駿高同窓会の活動が活発に展開されておりますことを心強く、また嬉しく思います。長年の悲願とも言うべき全国に誇るべき本格的なHPもワーキンググループの方々の大変なご努力により立ち上がりました。これからは、この同窓会HPを通じて、日本全国のみならず全世界で活躍される同窓生に様々な情報が発信されていくものと大きな期待を寄せる次第です。

さて、駿高もつい先日、第26期生の卒業式が行われ、これまでに7千名を優に越える卒業生が本校を巣立ちました。その間、28年に及ぶ駿高の歴史が積み重ねられてきたこととなります。創立30周年も間近と言えるでしょう。卒業生のご子弟が駿小、駿中へ入学するようにもなりました。この28年という時の長さをどうお感じになられるでしょうか。

28年間の内の27年間を、私は駿台甲府とともに歩んできました。思い出深い旧本館、北館、旧部室が取り壊され、昨年2月に竣工した5階建ての新本館を目の当たりにした時、これまでの駿高の変遷をしみじみとふり返らざるを得ない心境にさせられたものです。そこには短いようで長い、駿高の歴史がありました。

初期の駿高は「寮」を抜きにしては語ることはできません。男子校で制服は詰襟、駿高1期生は学年の半数以上(70名を超える)が寮生でした。2年目には150名、3年目には何と全校生徒の約260名、約半数が寮生・下宿生だったのです。北は北海道、南は沖縄まで、そして海外からも。大勢の県外生が「駿台」の名の下に、難関大学への進学を果たすべく甲府に集まってきたのです。最初の寮「旭日寮」は、今の朝日郵便局向かいのケーヨーD2のところにありました。先生方の学校と寮との行き来は、昼夜を問わず頻繁でした。寮生と共に食事を摂り、学習室で教科の個別指導をし、親元を離れて暮らす生徒の個室を訪れ、勉強のこと、進路のこと、クラブ、家庭、友だち、異性…と様々な話題で話は尽きません。まだ、若かりし教員たちの住む通称「駿台長屋」には、様々な目的で?!寮生たちが押し掛けたものでした。

今回、思い出に残る出来事・生徒、学校・生徒の変遷について語るということですが、生徒も教師も強烈な個性を持つ人たちの集まり。限られた字数で語り尽くせるものではありません。今回武勇伝をもつ多くの卒業生の中から1人だけ紹介するとすれば、かつ

て駿高入試で最下位で入学した生徒が、現役で東大に合格したという、今でも生徒教師に大きな勇気を与えてくれる卒業生がいることを挙げておきましょう。イベントでは駿高祭の後夜祭における有志企画による手に汗握る本格的なプロレスの余興。今活躍しておられる若かりし頃のトム・ギル先生がリングに上げられ、大歓声の中投げられたのをきっかけに、猛然とレスラーの生徒に突進していったのを覚えています。英国人としてのプライドをまざまざと見せつけられた思いがしました。他に箱根研修、妙高スキー合宿、北海道修学旅行、マラソン大会等、ハードでほろ苦く、かつ笑いと涙に包まれた数々のイベントについては次の方にお譲りしたいと思います。

この「駿高を語る」リレーのバトンをぜひ繋いで行って欲しいと思います。それぞれの時代の駿高を語り合っていきましょう。同窓会HPの定番となることを期待したいと思います。さて次は誰がバトンを受け取るのでしょうか。

最後になりましたが、本HPならびに同窓会、および会員諸氏の今後の益々のご発展を祈念致します。